

MM HEAD LINE

Photo/Y.IGARASHI 五十嵐豊



浸透力と防水性は強力な撥水性も高いため、電装コネクタ部分にスプレーしておけば、外部から水分が浸入しても通達は確保される。

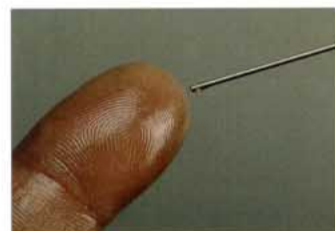
我々サンデーメカニックが、パーツクリナーと同様に多用するのが浸透潤滑スプレーである。固着して緩みづらいボルトに噴いたり、パーツ同士の接触面に用いたり、スチールワールでの錆落としに併用したりと、とにかく頻りに使っている。

高性能オイルとケミカルでモータースポーツ界からストリートまで多くのユーザーから支持されているニューテックの新製品「NC-101オスモシル」は、最高の性能を盛り込んだ多目的浸透潤滑剤である。エンジンオイルに鉱物性、化学合成というベースオイルの違いがあるのと同じく、浸透潤滑剤にも値段や性能によってさまざまな基材や組成の違いがある。中でもオスモシルの最大の特徴は「フッ素化不活性液体」を使用している点。フッ素化……と言われても何だか分からないが、カタンに言えば高性能潤滑剤として知られるテフロン（というのにはデュボン社の登録商標だが）を含有しているということ。つまり化学合成潤滑剤というわけだ。

同様の製品は他にもあるが、その多くは個体潤滑剤を液体に拡散させて製品化している。しかしオスモシルはこれと液体の状態を利用しているため、きわめて微少な隙間にもフッ素潤滑成分が浸透するのだ。また不活性であることで、一部の有機溶剤系の潤滑剤に見られるゴムへの膨潤作用もほぼ皆無という。

さらにフッ素化合物にはつや出し効果があるので、外装パーツや家電・キッチン家具の表面保護、つや出し、防汚作用まで期待できる。もちろんネジ部の緩めやワイヤー、リンクブッシュの潤滑、フロントフォークのインナーチューブの表面保護&オイルシールとの潤滑性向上、さらにドライブチエン（フッ素シール、シリルチエンとも）にも利用可能。

潤滑剤なんてどれも同じ、と高をくくっていたらこの性能は理解できない。こだわりのメンテナンスを目指すなら、高性能ケミカルの実力を試してみたい。



指先に軽く吹き付けてみると、粘度は低くサラサラした印象だ。ただ、溶液をウエスで拭き取っても、指先にはスベスベ感が残る。これがフッ素系潤滑成分の大きな特徴である。



ボルト・ナットから外装パーツまで!? 時と場所を選ばず使えるマルチな潤滑剤。



スプレーノズルは細い金属製で、逆さ噴きも可能なので狭い場所での作業性も良い。しかしノズル径が細いことで、スプレーの「切れ」が若干悪いという面もある（漏れ出し量は僅か）。フッ素化不活性液体は揮発性が極めて低いため、塗布した部分の潤滑皮膜が長持ちするのもオスモシルの特徴だ。容量300mlで2100円（税込）。



取材協力/ニューテックジャパン Phone 045-628-2055 <http://www.nutec-japan.com>